

31歳のオーストリア首相への期待と不安

発表日：2017年12月18日（月）

～極右政党が連立入り～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

◇ オーストリアでは18日、史上最年少となる31歳の首相を、極右政党が連立パートナーとして支える政権が誕生する。新政権は国民投票制度の見直し後もEU離脱の是非を問う国民投票の実施を否定し、親EU姿勢を明確にしている。難民危機対応を巡ってEUと対立する中東欧諸国との橋渡し役として期待される一方、イスラム諸国との関係悪化やEUの対ロシア制裁への影響が懸念される。

2017年は欧州各国で重要な選挙が相次いだ。何れもポピュリズム勢力が躍進したものの、一部で不安のあった政権奪取や政権入りは回避されてきた。だが、選挙イヤーのトリを飾ったオーストリアでは、極右と形容されることもある排外主義的な右派政党が連立パートナーとして政権入りすることが確実となった。10月の国民議会選挙で勝利した中道右派の国民党と反移民・反イスラムを掲げる右派政党で第3党の自由党は15日、前政権で外相を務めた国民党のクルツ党首を首相に、自由党のシュトラーク党首を副首相とし、連立政権を発足することで合意した。翌16日には首相や閣僚の任命権を持つファン・デア・ベレン大統領（緑の党出身で親EU派）が連立合意と閣僚名簿を了承。17日に全閣僚候補との面会を終え、18日に宣誓就任する。

史上最年少の31歳で首相に就任する国民党のクルツ党首は、国民党の青年組織で頭角を現した後、ウィーン市議会や内務省の移民統合事務局長を経て、2013年の前回議会選で全議員の中で最多票を獲得して初当選。初当選と同時に同国史上最年少の27歳で外相に就任し、2015年の難民危機時に国境管理の強化などを主導した。今年6月に国民党の党首に就任し、世論調査で3番手に低迷していた国民党を勝利に導いた。EUの域外国境管理の強化、不法難民の取り締まり強化、イスラム過激派対策の強化などを訴えている。

両党が交わした180ページ超に上る連立合意文書「ともにオーストリアのために」では、①税負担の軽減、②難民対応の厳格化、③テロ対策の強化、④国民投票制度の見直しなどが盛り込まれている。自由党は過去にオーストリアのEU離脱を主張していたが、政権入りに当たってそうした政策方針を封印。国民投票制度の見直しが実現した場合にも、同国のEU離脱の是非を問う国民投票を実施することはない旨を連立合意の中でも明確に記している。

クルツ・シュトラークへの両党首は新政権が親EU姿勢を堅持することを再三強調している。ただ、自由党はフランスの国民戦線やオランダの自由党など反EU的な政策を掲げるポピュリズム勢力と協力関係にある。自由党は過去にも連立政権に参加したことがあるが、2000年に国民党との間で連立政権を発足した際には、反EU的な極右政党の連立入りに欧州各国が反発し、オーストリアに対して外交関係断絶などの制裁を発動した。今回はそうした動きはみられないが、国内では自由党の連立入りに抗議するデモが頻繁に起きているほか、フランス財務相出身のモスコビッチ欧州委員、ユダヤ人団体、海外メディアなどから

警戒の声が上がっている。

自由党は13の閣僚ポストのうち、内務相と国防相を含めた6ポストを手にする。自由党が内外治安当局を揃って掌握することへの不安を和らげるため、諜報機関に正副首相への報告義務を課すことなどを明らかにした。難民対応では中東欧諸国と歩調を合わせる可能性がある。14・15日に行なわれたEU首脳会議では、難民の受け入れ分担の見直しを巡って加盟国間の意見が衝突。オーストリアは2018年後半にEU議長国を務めるが、難民対応を主要な政策課題とする方針を明かしている。外務相には自由党が指名する外交専門家（無所属）が就任する。自由党はロシアのプーチン大統領が率いる与党・統一ロシアとも協力合意を取り交わしており、シュトラーヘ党首は現在も対ロシア制裁の打ち切りを支持している。トルコやイスラム諸国との関係悪化やEUの対ロシア外交への影響を不安視する声も聞かれる。

自由党が連立入りした過去の政権では何れも5年の議会任期を待たずに政権が崩壊している。反EU的な主張を封印して政権に加わる自由党だが、所属議員や支持層の間には極端な主張の持ち主もなお多いとされる。31歳で首相に就任するクルツ党首が、内政上は二大政党への国民の幻滅と向き合い、連立政権内をどうまとめていくか、外政上は難民危機対応や司法・メディア介入を巡ってEUとの対立を強めている中東欧諸国との橋渡し役を果たせるか、その手腕に注目が集まる。

以上